

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：82512

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18H00821

研究課題名（和文）西洋化と民主化のリンケージを阻む諸要因に関する比較分析

研究課題名（英文）Comparative analysis about the factors of blocking linkage between Westernization and Democratization

研究代表者

今井 宏平（IMAI, KOHEI）

独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センター中東研究グループ・研究員

研究者番号：70727130

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,000,000円

研究成果の概要（和文）：研究成果として、各自がポピュリズムや民主主義と権威主義のハイブリッド体制が珍しくなくなってきた2010年代後半以降の時期に焦点を当て、一国研究および機構研究を行ない、研究会でそれらの事例を比較した、権威主義体制の最良の教科書の1つであるエリカ・フランツの『権威主義』を日本語に翻訳した、ハイブリッド体制の典型的な1国と評されているトルコに関して、複数回の世論調査を実施し、トルコ国民のハイブリッド体制およびEUに対する意見を収集した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

トルコ、ポーランド、ハンガリー、ラトヴィア、さらにラテンアメリカの専門家も加え、民主主義と権威主義のハイブリッド体制について比較研究を行なった。現在は民主主義国家と権威主義国家と単純に二分化することはできず、ほとんどの権威主義国家が民主主義の統治法を何らかの形で取り入れている点、特に近年、西洋化を進めた諸国家は西洋化を巧みに使い、権威主義的側面を強めている点を一連の研究で明らかにした。加えて、日本では権威主義、権威主義化に関するテキストがない点を鑑み、エリカ・フランツの『権威主義』を翻訳し、日本の権威主義およびハイブリッド体制の研究の底上げを図った。

研究成果の概要（英文）：We have three research achievements about comparative analysis about the factors of blocking linkage between westernization and democratization. First, each researcher focuses on hybrid regime between democracy and authoritarian regime during 2010s and published articles and books about hybrid regime. Second, we translated Authoritarianism written by Erica Frantz in Japanese. This book has been useful textbook about authoritarian regime. Third, we carried out public opinion survey about attitude of European Union and international politics by Turkish citizens in 2020 and 2022 with IPSOS research company.

研究分野：国際関係論、現代トルコ外交

キーワード：民主化の後退 自由民主主義 欧州連合（EU） 規範力 ナショナリズム トルコ 東欧

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

冷戦体制が崩壊する中で、フランシス・フクヤマは「歴史の終わり？」を執筆し、「民主主義の勝利」を高らかに宣言した。しかし、2017年になり、アメリカでのトランプ政権の誕生、ヨーロッパでの極右政党の台頭、国際政治上でのロシアや中国などが存在感を高めたことで、改めて「民主主義」について検討することが政治学のアジェンダとなっている。

もちろん、民主主義の再検討、特にその問題点についての議論は突然始まったわけではない。比較政治学においては2000年代後半から民主主義の質の後退についての議論が見られるようになった(Larry Diamond, "The Democratic Rollback: The Resurgence of the Predatory State", *Foreign Affairs*, March/April 2008)。政治的自由と市民の自由に基づく自由度の調査で有名なNGOの1つ、フリーダムハウス(Freedom House)の自由度の進展と後退に関するここ12年間のデータを比較すると、2005年は自由度が進展した国の方が多かったが、2006年以降は一貫して自由度が後退した国の数が多い。自由度が進展した国と後退した国の数の差異が一番大きかったのは2009年の33であるが、2014年以降の3年間の差異は30前後で推移している。自由度は民主主義の質に直結するものである。2010年代中頃になり、自由度、言い換えれば民主主義の質の後退は常態化しつつあると言えるだろう。

また、2010年代の民主主義の質の後退の特徴として、EU加盟国もしくは加盟交渉国として、ある程度民主主義が定着した国々においても民主主義の質の後退が見られる点が指摘できる。具体的には、トルコ、ハンガリー、ギリシャ、ブルガリア、ラトヴィア、ポーランドといった国々である。民主主義が定着した国(新興民主主義)の民主主義の質の後退は、当該諸国の問題だけでなく、それらの国々の民主化を向上させてきたEUおよびその核をなす先進民主主義国においても民主主義という規範力が劣化している証左とも言えるだろう。

こうした状況において、本研究は世界の民主主義の質の後退の要因を明らかにすることを目指し、特にこれまで民主化の進展に大きな役割を果たしてきた先進民主主義国の規範力の劣化と新興国の民主主義の質の後退に着目することとした。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は「近年、EUと密接に関連する諸国家において、一度向上した民主主義の質が後退に転じているのはなぜか」を明らかにすることである。民主主義と権威主義の間のグレーゾーンの研究で名高いレヴィツキーとウェイは、「西洋の先進民主主義国とのリンケージが高ければ民主化は進展する」と主張したが、近年の状況はこのテーゼを反証するものである(Steven Levitsky and Lucian Way, "International Linkage and Democratization", *Journal of Democracy*, Vol.16, No.3, 2005)。

そのうえで、EUの規範力が劣化したため、各国の与野政党がEUの規範の浸透をブロック、もしくは選定したため、ナショナリズムの高揚により、EUの規範が国民の間で浸透しなくなったため、という3つの仮説を検討することで各国間に共通する民主化を妨げている要因を抽出する。

## 3. 研究の方法

本研究は、大きくEUおよびその核をなす先進民主主義国の規範力に関する研究班と、トルコ、ポーランド、ハンガリー、ラトヴィアの新興民主主義に関する研究班に分かれてEU加盟国および加盟交渉国の民主主義の質の後退について検証した。

EUの規範力に関する研究班は、東野と杉浦の2名で構成され、主に研究の目的の仮説の検証を行った。東野は、EUの規範力についての分析を担当した。杉浦は、EUが規範力によって加盟国および加盟交渉国に与える圧力の有無について分析した。

新興民主主義国に関する研究班は上谷、中井、今井、市川、山本の5名で構成され、主に仮説との検証を行った。上谷は、ラテンアメリカ諸国などで見られた、民主的な選挙で大統領職を勝ち取った者は、憲法や制度に縛られずに権力を行使できるという「委任型民主主義」の分析、さらにポピュリズムの分析を担当した。本研究で研究対象とする諸国家は民主主義の質が後退した、または後退しているものの、民主主義の範疇に留まっていると仮定した。委任型民主主義は、民主主義であるものの、権力の抑制と均衡を欠いているため、権威主義的な要素が垣間見られる体制である。中井は対象国の計量的手法による実証分析について主導的な役割を果たした。

今井、市川、山本、中井は分析対象国の現状分析を実施する。今井が担当するトルコに関しては、2013年5月に発生したゲズィ抗議から現在に至るまでのエルドアン大統領の権力強化の実態、与党公正発展党の党内ポリティックス、社会福祉政策、公正発展党への支持が高止まりしている要因について検討した。ポーランドに関しては、2015年の総選挙で反移民を掲げる保守政党「法と正義」が台頭するなど、次第に偏狭なナショナリズムが政治に持ち込まれつつあった。担当する市川は、「法と正義」について分析するとともに、なぜ欧州難民危機の当事国ではない

ポーランドでナショナリズムが高まったのかを中心に検証した。ハンガリーを担当する山本は、主に2010年に再選されたオルバン首相と彼が所属する極右政党「フィデス」についての検証を行った。オルバン政権下でハンガリーは民主主義の質の数値が後退しているだけでなく、欧州難民危機に際して、難民に最も不寛容な姿勢を採るなど、そのソフトパワーも減退させている。中井が担当するラトヴィアについては、上記の3ヶ国とは状況が異なる。ラトヴィアは2011年から12年にかけて一時的に民主主義の質の数値が悪化し、その後、再びその数値が改善した。ラトヴィアの事例は、民主主義の質の後退の事例だけではなく、それをいかに克服するかを検討するうえで重要な事例となる。

このような形で分析を行なうことで仮説の～を検証した。また、トルコに関しては世論調査を複数回実施することで、市民がトルコの与党の内政と外交、特にEUや権威主義国に対してどのように見ているのかを明らかにしようとした。

#### 4. 研究成果

各年度において、研究代表者・研究分担者それぞれが～の仮説を念頭に置き、論考を執筆、もしくは研究発表を行ってきた。また、今井、上谷、中井でエリカ・フランツの『権威主義』を翻訳し、2020年に刊行することができた。一方で、2020年度以降のコロナ禍により、トルコで予定していたワークショップが実施できなかった。その代替として、トルコで数回、～に関する世論調査を実施し、データを収集した。

本研究は民主主義と権威主義のハイブリッド体制、そしてハイブリッド体制と西洋化との関係に関して日本での研究状況を前進させることを念頭に置いてきた。上記の成果でこの目標はある程度達成できたと考えている。他方で、コロナ禍において未曾有の危機においては民主主義よりも権威主義体制の方が迅速に対応できるので、より効率的だという見解も見られた。ただし、時間的な制約もあり、2020年以降の事象に関しては本研究の対象に含めなかった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 山本直	4. 巻 7
2. 論文標題 ハンガリーの権威主義化とEU - COVID-19対策期の軋轢 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 グローバル・ガバナンス	6. 最初と最後の頁 95-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川顕	4. 巻 14巻第1号
2. 論文標題 EUにおけるガス供給源多様化をめぐる欧州諸国の動向 2015年7-12月を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 政策情報学会誌	6. 最初と最後の頁 43-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上谷直克	4. 巻 36 (2)
2. 論文標題 専制化の兆しを見せる中米・北部3カ国 (NTCs)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ラテンアメリカ・レポート	6. 最初と最後の頁 51-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24765/latinamericareport.36.2_51	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上谷直克	4. 巻 37 (2)
2. 論文標題 Covid-19に揺さぶられる中米・北部三角地帯諸国 (NTCs)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ラテンアメリカ・レポート	6. 最初と最後の頁 20-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24765/latinamericareport.37.2_20	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平	4. 巻 1006
2. 論文標題 トルコ政府によるアヤソフィアの再モスク化に関する一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 32-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉浦功一	4. 巻 22
2. 論文標題 民主主義体制の脆弱化と権威主義体制の強靱化における国際的要因の考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本比較政治学会年報	6. 最初と最後の頁 179-209
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉浦功一	4. 巻 62
2. 論文標題 国際援助における「政治性」の問題 国際NGOのジレンマを中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 和洋女子大学紀要	6. 最初と最後の頁 43-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18909/00001977	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平	4. 巻 66
2. 論文標題 「際立つ民族主義者行動党の存在感」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 55-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平	4. 巻 6
2. 論文標題 「トルコにおける2019年3月の地方選挙の展望」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中東レビュー	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平	4. 巻 919
2. 論文標題 「『強い大統領』エルドアンに導かれるトルコ」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 104-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東野篤子	4. 巻 1034
2. 論文標題 「EUの東方パートナーシップ (EaP) 政策の展開」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ロシア・ユーラシアの経済と社会	6. 最初と最後の頁 29-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川顕	4. 巻 46
2. 論文標題 「欧州におけるポピュリズムについて」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 産研論集	6. 最初と最後の頁 159-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ryo Nakai	4. 巻 45(3/4)
2. 論文標題 “Attitudes toward Visible Migrants in the Baltic States: An Empirical Analysis with Social Survey Data”	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Law and Political Science (Kitakyushu Shiritsu Daigaku Hou-Sei Ronshu)	6. 最初と最後の頁 131-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ryo Nakai	4. 巻 46(1/2)
2. 論文標題 “Rise of Outsiders in Estonia and Latvia Municipal Elections in 2017: Radical Rightist and Reformist Populist”	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Law and Political Science (Kitakyushu Shiritsu Daigaku Hou-Sei Ronshu)	6. 最初と最後の頁 17-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上谷直克	4. 巻 35(2)
2. 論文標題 脆弱化するラテンアメリカ民主政治	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ラテンアメリカ・レポート	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 市川顕
2. 発表標題 イリベラル・デモクラシーをめぐるポーランド = EU関係
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 上谷直克
2. 発表標題 分極化と権威主義化が交錯するラテンアメリカ
3. 学会等名 日本比較政治学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉浦功一
2. 発表標題 国際援助における「政治性」の問題 国際NGOのジレンマを中心に
3. 学会等名 日本政治学会2020年度研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kohei Imai
2. 発表標題 Why Syrian refugees choose Turkey as a final destination -The quantitative analysis to Syrian refugees in Turkey
3. 学会等名 25th World Congress of Political Science, International Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 今井宏平
2. 発表標題 シリア難民に対するトルコとEUの協調行動
3. 学会等名 日本国際政治学会2018年度研究大会
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 東野篤子
2. 発表標題 東方パートナーシップ (EaP) の10年
3. 学会等名 日本国際政治学会2018年度研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本直
2. 発表標題 ハンガリー = ポーランド問題とEU
3. 学会等名 日本公益学会2018年度研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本直
2. 発表標題 EU党派政治とハンガリー=ポーランド問題
3. 学会等名 国際人権法学会2018年度研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉浦功一
2. 発表標題 平和と民主シーの間のジレンマの検証 『神話』は崩壊したのか？
3. 学会等名 日本国際政治学会2018年度研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉浦 功一
2. 発表標題 民主化支援の今日的ディレンマ 国際社会から見た現状と課題
3. 学会等名 日本平和学会2018年度秋季研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 市川 顕
2. 発表標題 2015年EUエネルギー同盟パッケージをめぐる政治過程
3. 学会等名 政治社会学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ryo Nakai
2. 発表標題 Does Ethno federalism Increase or Reduce Voters National Attachment? Cross-national Longitudinal Survey Research
3. 学会等名 25th World Congress of Political Science, International Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ryo Nakai
2. 発表標題 Compassing honest and diverse attitude toward immigrants in Latvia and Estonia: Empirical result from an experimental survey
3. 学会等名 2nd Riga Readings in Social Sciences (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 市川 顕、高林 喜久生、鈴木謙介、望月康恵、武田健、吉沢晃、東野篤子、山川卓、松尾秀哉、小林正英、福海さやか、	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 244
3. 書名 EUの規範とパワー	

1. 著者名 植田隆子、岡部みどり、高屋定美、八十田博人、森井裕一、坂井一成、武居一正、吉武信彦、家田修、市川顕、志摩園子、池本大輔、ヤン・ワータース、刀祢館久雄	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文真堂	5. 総ページ数 348
3. 書名 新型コロナ危機と欧州	

1. 著者名 坂井一成、八十田博人、市川顕、今井宏平、東野篤子ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 240
3. 書名 よくわかるEU政治	

1. 著者名 エリカ・フランツ（上谷直克、今井宏平、中井遼）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 234
3. 書名 権威主義	

1. 著者名 川名晋史、今井宏平、溝淵正季、石田智範、森啓補、辛女林、高橋美野梨、マッテオ・ディアン、波照間陽、古賀慶	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 基地問題の国際比較	

1. 著者名 高橋良輔、山崎望、川名晋史、今井宏平、佐藤史郎、中内政貴、中村長史、八木直人、大庭弘継、西海洋志、芝崎厚士	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 324
3. 書名 時政学への挑戦	

1. 著者名 羽場久美子、今井宏平、川上泰徳、久保環、ニコラス・クレンシャー、中谷毅、東村紀子、中澤達哉、松本 佐保、堀江典生、神原ゆうこ、須佐多恵、渋谷淳一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 416
3. 書名 移民・難民・マイノリティ	

1. 著者名 中井 遼	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新泉社	5. 総ページ数 304
3. 書名 欧州の排外主義とナショナリズム	

1. 著者名 川名晋史、齊藤孝祐、高橋美野梨、小泉悠、堀場明子、福田毅、山崎周、今井宏平、溝渕正季、東野篤子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 296
3. 書名 共振する国際政治学と地域研究	

1. 著者名 小笠原弘幸、穠山祐子、今井宏平、上野愛実、沖祐太郎、柿崎正樹、川本智史、田中英資、濱崎友絵、山尾大	4. 発行年 2019年
2. 出版社 九州大学出版会	5. 総ページ数 324
3. 書名 トルコ共和国：国民の創成とその変容	

1. 著者名 益田実、山本健、小川浩之、黒田友哉、池本大輔、東野篤子、山本直	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 392
3. 書名 欧州統合史：二つの世界大戦からブレグジットまで	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中井 遼  (Nakai Ryo)  (10546328)	北九州市立大学・法学部・准教授   (27101)	
研究分担者	山本 直  (Yamamoto Tadashi)  (60382404)	日本大学・法学部・教授   (32665)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	東野 篤子  (Higashino Atsuko)  (60405488)	筑波大学・人文社会系・教授    (12102)	
研究分担者	上谷 直克  (Uetani Naokatsu)  (80450542)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・新領域研究センター ガバナンス研究グループ・研究グループ長代理    (82512)	
研究分担者	市川 顕  (Ichikawa Akira)  (80644864)	東洋大学・国際学部・教授    (32663)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関